



日本スーパーマーケット協会

平成19年4月 マンスリー レポート

集計企業数 **60** 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	37,327,829 万円	100.0%	103.8%(104.9%)	35,434,482 万円	100.9%(101.6%)
食 料 品	30,025,910 万円	80.4%(80.7%)	103.8%(105.0%)	28,686,743 万円	101.1%(101.9%)
農 産	4,271,020 万円	11.4%(11.3%)	104.5%(105.2%)	4,064,868 万円	101.8%(102.3%)
水 産	3,329,369 万円	8.9%(9.2%)	101.2%(102.4%)	3,194,510 万円	98.9%(99.1%)
畜 産	3,362,689 万円	9.0%(8.9%)	103.9%(105.3%)	3,208,179 万円	101.1%(101.7%)
惣 菜	3,068,057 万円	8.2%(8.2%)	105.8%(106.2%)	2,833,382 万円	102.7%(102.0%)
日配食品	6,842,927 万円	18.3%(18.3%)	103.6%(104.9%)	6,529,872 万円	100.7%(102.7%)
加工食品	9,151,848 万円	24.5%(24.7%)	103.8%(105.6%)	8,855,932 万円	101.3%(102.2%)
生活関連	3,037,042 万円	8.1%(8.0%)	101.3%(103.5%)	2,909,247 万円	99.2%(101.2%)
衣 料 品	1,882,121 万円	5.0%(4.7%)	101.2%(100.3%)	1,755,473 万円	99.0%(97.9%)
そ の 他	2,382,756 万円	6.4%(6.6%)	108.9%(108.4%)	2,083,019 万円	102.8%(101.8%)

数 値

全店総売上高	37,327,829 万円	店 舗 数	3,520 店舗
総売場面積	6,109,006.2 m ²	総従業員数	172,238 人

店舗平均月商	10,604.5 万円	平均客単価	1,902.1 円
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円(6.0 万円)	平均店舗面積	1,735.5 m ²
月間坪売上(前月)	20.2 万円(20.0 万円)	パート比率(前月)	75.5%(76.1%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 降水量は少なかったものの、日照時間が少なく寒暖の差が激しかったことから、季節品の販売に苦慮した
- ・ 新学期やお花見、行楽ニーズなどにより、冷凍食品、ハム・ソーセージ、うずら卵など、お弁当商材の動きが活発であった

商品動向

農産

- ・ 大型野菜が相場高で売上不振の中、トマトやきゅうりは価格も安定しており、サラダ需要などで好調に推移した
- ・ 旬の生たけのこについては、品質も良く入荷も順調であり好調であった。また、そら豆などの豆類も好調であった
- ・ 果物については、バナナが相場上昇により売上増となった

水産

- ・ 旬のかつおは大型で脂もあるが、量が安定せず販売に苦慮した。しかしながら、タタキについては、炭火焼だけでなくワングレードアップのわら焼きなどを販売したところは好調であった
- ・ アジについては、刺身、丸物ともに好調に推移した
- ・ うなぎ商材が全般的に好調であった。また、マグロについても生マグロ、ピン長マグロなど全般的に好調に推移した

畜産

- ・ 牛肉については、焼肉・ステーキが好調に推移した。一部企業では、アメリカ産牛肉の販売を再開し、オーストラリア産より品質が良いことなどから、好調な売れ行きとの報告もある
- ・ 豚肉・鶏肉についてもおつまみやお弁当需要から、全般的に好調に推移した。また、ハム・ソーセージなどの加工品も好調に推移した

惣菜

- ・ 米飯については、旬の商材を使用したお弁当を中心に好調に推移した。しかしながら、揚げ物については苦戦した
- ・ サラダの伸長が著しく好調に推移するも、その反面、和風惣菜の動きが鈍い

日配・加工食品

- ・ 日配食品については、行楽やお弁当需要の高まりから、冷凍食品の売り上げが大幅に伸長した。また、佃煮や漬物についても行楽需要で好調であった
- ・ 引き続き健康志向需要から、野菜飲料およびヨーグルトが好調であった。また、デザート類においても、和菓子やアイスが好調であった
- ・ 加工食品については、飲料・ビールそして米が好調に推移した
- ・ 他部門同様に、弁当商材やサラダ商材が全般的に好調であった

その他

～お花見・行楽マーケットの動向について～

- ・ 本年は比較的天候に恵まれたことから、全般的に好調に推移した。特に少量サイズのニーズが高まっており、色々な種類を少しずつという傾向が強まっている
- ・ 惣菜部門では、から揚げやエビフライ、焼き鳥などのおつまみメニューが好調。また、手巻き寿司やお花見用の予約弁当も好調であった
- ・ 冷凍食品においても、お弁当商材およびスナック商材が好調であった。しかしながら、台湾産の冷凍枝豆などは不振であった
- ・ アルコールに関しては、発泡酒や缶チューハイが不振となったが、ビールが好調に推移した。また飲料についても全般的に好調であった

～アメリカ産牛肉の取り扱いについて～

- ・ 回答をいただいた17社中、アメリカ産牛肉を販売している企業は4社。販売再開を予定している企業が2社、今のところ販売再開の予定はない企業が11社
- ・ アメリカ産牛肉を販売している企業では、約15%～30%の売上構成比になっている
- ・ 販売再開に関しては、慎重な意見が多く、特に、お客様からの要望があれば販売を再開するという声が多く。また、輸入牛については、価格優位性が以前に比べ少ないこと、さらに不信感が根強いことなどから、国産牛の販売が好調なため特にアメリカ産を販売する必要がないとの声もある
- ・ 輸入再開当初は、店の牛肉がアメリカ産ではないかどうか心配される声が多かったが、今ではアメリカ産の牛肉を販売してもらいたいという声が出ていることから、販売再開を検討しているという企業もある
- ・ 既に販売している企業からは、お客様の過剰反応はなく、品質面でもオーストラリア産に比べ良好なため販売は好調であるという報告がきている

以上